

令和3年4月

豊川市立一宮東部小学校 いじめ防止基本方針

豊川市立一宮東部小学校

1 いじめ防止についての基本的な考え方

いじめは、生徒の人権及び名誉を著しく毀損するとともに、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるばかりでなく、その生命又は身体に重大な危険を生じさせる恐れがある。

そこで、教職員が一致団結し、日ごろからささいな兆候を見逃さないように努めるとともに、学校全体で組織的に対応していかなければならない。

学校は、子どもたちが安心して楽しく学べる環境でなくてはならない。児童生徒が、自己肯定感や自己有用感をもち、仲間とともに成長できるよう、道徳・特別活動をはじめ、学校教育活動全体で規範意識の向上を図ったり、集団のあり方について学習を深めたりする。

また、日ごろから関係機関との連携を密にし、情報の共有を図るなど、いじめの未然防止と早期解消に向けて取り組んでいく。

2 いじめ防止対策組織

「サポート委員会」を設置し、情報共有と迅速な組織的対応の実現を図る。

全職員で構成する。必要に応じて、スクールカウンセラーなどの専門家を加える。

(1) 「サポート委員会」の役割

① 学校いじめ防止基本方針に基づく取り組みの実施と進捗状況の確認

- ・ 学校評価アンケートから、本校におけるいじめ防止対策の検証を行い、改善策を検討する。

② 教職員の共通理解と意識啓発

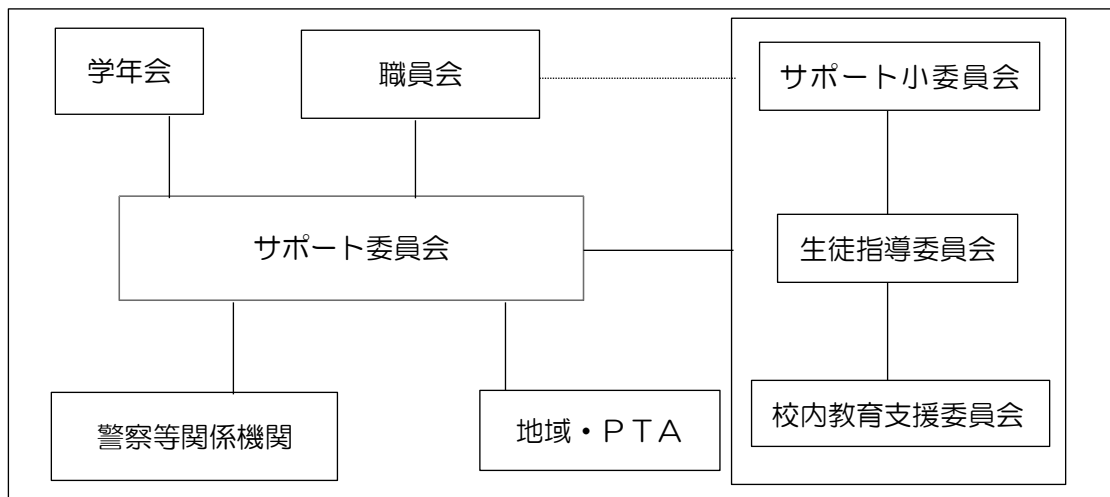
- ・ 年度初めに、「いじめ防止基本方針」の周知と共通理解を図る。
- ・ いじめの未然防止のための環境づくり、担任のかかえこみを防ぐことなどを目的とする校内研修を進める。
- ・ 生活（いじめ）アンケートや教育相談の結果を集約、分析、対策の検討を行う。

③ 児童生徒や保護者、地域に対する情報の発信と意識啓発、意見聴取

- ・ 学校便りやホームページ等を通して、いじめ防止の取り組み状況や学校評価結果等を発信する。

④ いじめへの対処

- ・ いじめがあった場合や、その疑いがあるという情報があった場合、正確な事実の把握に努め、問題解消に向けた指導・支援体制を組織する。
- ・ 事案への対応は、メンバー構成を検討し、迅速に対応する。必要に応じて関係機関との連携を図る。
- ・ 問題が解消した場合でも、その後の様子を見守り、継続的な指導・支援を行う。



3 いじめの防止等に関する具体的な取り組み

児童生徒が発する小さなサインを見逃さないようにし、早期発見に努める。定期的にいじめアンケート調査を実施するとともに、教育相談の時間を設け、子どもの悩みを受け取る。

(1) いじめの未然防止

- ① 児童生徒同士のかかわりを大切に、互いに認め合い、ともに成長していく学級づくりを進める。
- ② 児童生徒の活動や努力を認め、自己肯定感を育む授業づくりに努める。
- ③ 教育活動全体を通して、道徳教育・人権教育の充実を図るとともに、体験活動を推進し、命の大切さ、相手を思いやる心の醸成を図る。
- ④ 情報モラル教育を推進し、児童生徒がネットの正しい利用とマナーについての理解を深め、ネットいじめの加害者、被害者とならないよう継続的に指導する。

(2) いじめの早期発見

- ① 生活アンケートや教育相談を定期的実施（年3回）し、児童生徒の小さなサインを見逃さないように努める。
- ② 教師と児童生徒との温かい人間関係づくりや、保護者との信頼関係づくりに努め、いじめ等について相談しやすい環境を整える。
- ③ いじめ相談電話等、外部の相談機関を紹介し、児童生徒が相談しやすい環境を整える。

(3) いじめへの対処

- ① いじめの発見・通報を受けたら「サポート委員会」等を開催し、組織的に早急に対応する。
- ② 被害児童生徒を守り通すという姿勢で対応する。
- ③ 加害児童生徒には教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う。
- ④ 教職員の共通理解を図り、保護者の協力を得て、スクールカウンセラー等の専門家や、警察署、児童相談所等の関係機関と連携し、対応する。

- ⑤ いじめが起きた集団へのはたらきかけを行い、いじめを見過ごさない、生み出さない集団づくりを行う。
- ⑥ ネット上のいじめへの対応については、必要に応じて警察署や法務局等とも連携して行う。

4 いじめ防止年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会議・研修等	・学校いじめ防止組織の立ち上げ										・学校いじめ防止基本方針等の見直し	
	・PTA総会でいじめ防止基本方針、相談窓口等の周知											
	・校内研修(1)			・校内研修(2)			・校内研修(3)			・学校評価		
	・サポート委員会(1)			・サポート委員会(2)			・サポート委員会(3)			・サポート委員会(4)		
	・学校運営協議会(1)			・学校運営協議会(2)			・学校運営協議会(3)			・学校運営協議会(3)		
学校いじめ防止基本方針が機能しているか、PDCAサイクルによる検証												
未然防止	学級づくり・人間関係づくり・学校行事や様々な体験活動・道徳教育等の充実・分かる授業の実践											
	ペア活動、学級タイム、「友達のかがやき」、「ありがとうの木」・・・など、1年を通して行う活動											
	・第1回学校の日 授業公開			・懇談会による 啓発活動			・ネット5Rの講演会 (一東小校区青少年健全育成推進協議会)			・懇談会による 啓発活動		
	・児童会、PTA、青少年健育協のあいさつ運動(随時、〇の日等)						・児童生徒による啓発活動					
	日常的な児童生徒の観察・教職員間での情報交換											
早期発見	・学校評価アンケート(児童、保護者、職員)											
	・いじめアンケート(1)				・いじめアンケート(2)				・いじめアンケート(3)			
	・個別の教育相談(1)				・個別の教育相談(2)				・個別の教育相談(3)			

5 重大事態への対処

児童生徒の生命・心身又は財産に重大な被害があり、又は相当期間にわたり被害生徒が欠席を余儀なくされたり、多人数によるいじめが相当期間継続したりするなどの重大事態への対応については、教育委員会へ発生の報告をし、学校が調査主体となった場合、次のようにする。

- ① 学校に重大事態の調査組織を設置
- ② 事実関係を明確にするための調査を実施
- ③ いじめを受けた児童生徒及びその保護者へ適切な情報提供
- ④ 調査結果を教育委員会に報告
- ⑤ 調査結果を踏まえた必要な措置